

令和 7 年度

【1】

題名	ぼくのお父さんの仕事について
本人氏名	坪井 統晴 (つぼい すばる)
性別	男
年齢	11歳
候補者との続柄	子

ぼくのお父さんは、内装仕上げ工事の職人さんです。内装仕上げ工事とは、建物の中の壁や天井を作る仕事です。

ぼくと弟の部屋の壁をお父さんが作ってくれました。

その時に思ったことは、壁や天井は、ただ板を張り付けているだけではないことがわかりました。板を張り付けるまでに鉄骨を立てたり、ネジを打ったり、いろいろな材料をつかっていることを教えてもらいました。簡単そうに見えていたのですが、全然ちがいおどろきました。

材料の中で、小学校でもよく見る白いボンドを、使っていたり身近な物が使われていることも分かり、おもしろいと思いました。

そして、ぼくが1番きょう味をもったのは、使う仕事です。いくつもの道具を、使い分けていてすごいと思いました。インパクトという道具を、使わせてもらったけれど力加減がわからなくてむずかしかったです。

ぼくの部屋の壁よりももっと大きな建物を何ヶ月もかけて作っていくお父さんをとてもかっこいいと思います。

いつもお父さんと出かけた時に、

「この壁は、父さんが作ったんだよ」

と自慢してきます。ぼくもみんなに自慢できる仕事をしたいと思いました。

【2】

題名	私のおじいちゃん
本人氏名	都 優真（みやこ ゆうま）、都 梨亜（みやこ りあ）
性別	男、女
年齢	14歳、13歳
候補者との続柄	孫

私の祖父は、建材の隙間をコーティング材で埋めて気密性を高めるコーティング工事や防水工事を主にやっており、高速道路の橋の耐震補強もしています。

建設技能者として働く祖父を誇りに思ったことは、瀬戸大橋やサンポートのシンボルタワーなどのたくさんの人が使用していて、地図に残るような建物の工事をしていたことです。家庭で建設技能者という仕事について聞いたことは、シンボルタワーでは、最上階でも作業をしていたと言っていました。また、「十階建ての建物でもすごく怖かった。」と話していました。高い所が苦手でも建設技能者として丁寧に仕事をやり抜いていて「かっこいいな。」と思いました。

建設技能者という仕事について思っていることは、誰かの役に立ったり、支えになったりする場所を作っていくという事が素敵だと思いました。改めて私も、建設技能者という仕事に興味、関心を持ちました。そして何より私達が普段使用している建物を作ってくれたり、建物の修復をしたりしてくれている建設技能者の方々に感謝をしたいなと思いました。

【3】

題名	わたしのお父さんのお仕事
本人氏名	小川 華 (おがわ はな)
性別	女
年齢	10歳
候補者との続柄	子
<p>わたしのお父さんは、たくさんのお店や家をぬっています。</p> <p>わたしが小さい頃は、どこで何をしているかわからなかつたけど、今ではもう少しで5年生になるので、お父さんにどこで何をしているかをたくさんきくようになりました。</p> <p>いつもお父さんは、お仕事でたくさんおもい物をもっていて、家でもだいかつやくしています。お父さんは、昔からこのお仕事をしていて、いつもたよりになっています。お父さんは、朝はやくお仕事にいって夜おそくにかえってきて、いつもつかれないとおもうのでたくさんやすんではほしいです。</p> <p>お父さんこれからもお仕事がんばってね！</p>	

【4】

題名	父の仕事は建設業
本人氏名	若竹 充輝（わかたけ みつき）
性別	男
年齢	15歳
候補者との続柄	子

僕が素直に思う建設業のイメージは、あまり良いイメージは無く、肉体労働が基本で休みも少なくきつい。土や、泥が付く仕事なので汚い。高所での作業や、重機を使った作業もあり危険です。

そして夏の強い日差しの中の作業、雨が降る中での作業、風の強い日の作業現場が遠ければ、朝も早く、帰りも遅い。

やはり、父の仕事である建設業は、決して楽ではありません。そんな仕事でもグチや弱音をいっさい言わずに毎朝仕事に「いってきます」と行く父をすごいなと思います。

そして、父が毎日がんばって働いているのは、建設業にしかない仕事に対するやりがいや、喜びがあるのだろうなと思います。

そして、僕はこの作文を書いていて父の仕事について考えました。

僕たちが生活していく上で、父が働いている建設という仕事は無くてはならない仕事だと思いました。

また、建設の仕事は1人の力では出来ません。

色々な専門の人たちが集まり、長い期間をかけて1つの物を造りあげた時の感動や達成感は、きっと僕が想像してもしきれないほど素晴らしいものだと思いました。

そんな僕は、まだ将来どんな仕事につくかも今はまだ分かりません。

しかし、この作文を書きながら、毎朝仕事へ行く父の姿を見て、父が建てた物を見ると、父と同じ建設業の道に進むのも良いなと思っています。

【5】

題名	お父さん
本人氏名	佐野 由姫奈 (さの ゆきな)
性別	女
年齢	15 歳
候補者との続柄	子
私のお父さんは橋を作る仕事です。川の上を渡るための橋や道路の橋などさまざまな橋を作っています。出張が多くいえにいる日があまりありませんが、遠い出張先から車で何時間もかけて家に帰ってきていて大変そうだなあと思っていました。仕事で疲れているのにもかかわらず、塾や学校の日、友達と遊ぶ日には自ら「おくろうか?」と言って送迎をしてくれたりします。返ってきた時には仕事の話を聞くこともあります。たまに仕事先から橋の途中経過や大きくて立派な橋の写真が送られてくることもあります。私はどのように橋を作っていくのか詳しくは分かりませんが、とても大変で時には危ない事をするのも知っています。私には怖くてそんな大変な作業は出来そうにないです。だからこそ、怪我や病気をしないよう健康には気を付けて、これからも長生きして欲しいと思っています。私にはまだ叶えたい夢やつきたい職業もありませんが、心から楽しめる仕事に就くために勉強をがんばっていきたいです。	

【6】

題名	暮らしを支える電気工事士
本人氏名	後藤田 真由（ごとうだ まゆ）
性別	女
年齢	13歳
候補者との続柄	子

私の父は電気工事をしています。電気工事士という仕事は、私たちが毎日当たり前のように使っている電気を安全に届けるための大切な仕事です。家の電気がつくことや、テレビやエアコンが使えること、スマートフォンを充電できること。これらはすべて父のような人がいるおかげなのだと知り、とても誇らしく思っています。

父の仕事は目に見えないものを扱っているのですごいと思います。電気は水や空気のように当たり前にあり、普段意識することはありません。しかし、父は電気がどこから流れ、どこへ流れるか理解し、正しくつなぐことができます。電線の中を通る電気の流れをイメージしながらミスなく工事をするのはとても難しいことだと思います。

また、父は、「電気は便利だけど、正しく扱わないと危険なものもある」と言います。作業前には必ず電気が流れていなかを確認し、ゴム手袋やヘルメットをしっかりとつけます。「急ぐときほど落ち着いて作業しないといけない」と言う父の言葉を聞いて私はどんな仕事でも冷静さや慎重さが大切な学びました。

夏の暑い日も冬の寒い日も関係なく働かなければなりません。屋根の上や狭い場所、高い場所での作業も多いそうです。また、重い機材を運んだり長時間の作業を続けたりすることもあります。もし、電気がなければエアコンが使えず暑い夏や寒い冬を乗り越えることも大変です。私たちが快適に生活できるのは父のように電気を支える仕事をしている人がいるからです。このように考えると父の仕事のすごさを感じました。

私は父の仕事に向かう姿勢を尊敬しています。どんなときも真剣に取り組み、手を抜かず最後までやりきること。そして自分の仕事に誇りをもち、人の役に立っていることを実感しながら働いていること。どれも簡単にできることではありません。だからこそ父を誇りに思います。

これからも父には元気で仕事を頑張ってほしいです。私もいつか父のように自信をもって働く大人になりたいと思います。父が電気を通して人の生活を支えているように、私も将来誰かの役に立てる仕事をしたいです。

【7】

題名	わたしのやさしいお父さん
本人氏名	吾郷 愛依（あごう めい）
性別	女
年齢	10歳
候補者との続柄	子

わたしのお父さんはエレベーターなどの工事をする仕事をしています。

お父さんは仕事熱心でとてもやさしいです。わたしが仕事熱心だと思った理由は、朝とても早くに仕事へいくのに、夜おそくまで仕事し、かえってくるからです。それだけではありません。夜勤でねむたいのにもかかわらず、パソコンで仕事の資料のようなものにうちこんだり、仕事の電話に出ていたりしています。それに、休みも月に数回しかありません。

1週間に1回あるかないかくらいです。それにもかかわらず、お父さんはとても自分より家族をゆうせんしてくれます。たとえば、数少ない休みの日をどこかにいくかきいて、つれていっててくれたり、家族のためにたくさんの時間を使ってくれます。

わたしはこのように家族思いのやさしいお父さんをとてもそんけいしています。けれどきっと仕事やどこかに出かけたりしていてそんなにゆっくりしていなくとてもつかれていると思うので、わたしもできるかぎり、助けになれるといいなと思いました。わたしが大人になったとき、お父さんのような家族のことを考えるとても大切なそんざいになれるといいなと思いました。

これからも仕事いろいろたいへんだろうけれどがんばってください。

【8】

題名	私の自まんのお父さん
本人氏名	山下 心乃瑠（やました このる）
性別	女
年齢	10歳
候補者との続柄	子

私のお父さんは、大工さんです。現場が近い時たまに家族でお父さんががんばるすがたを見に行きます。お父さんを見ると、耳にえんぴつをかけています。私は、「大工さんやなー。」と思いました。

さすが私の自まんのお父さんです。

私のお父さんは、すごくお金持ちです。たまに家族で近くのファミマに行きます。みんなで楽しくおかしや色々買います。お父さんは、「こっちゃんいっぱいカゴに入れや、いっぱい買いや。」といつも心がいやされる、うれしいことを言ってくれます。

後、なんでも買ってくれます。最後にみんなで、「ありがとう。」と言います。すごく楽しいです。

そして、すごく顔がかっこいいです。イケおじです。

後、お父さんが帰って来た時、木のにおいがします。いいにおいです。お父さんは、すごくがんばっています。

そして、お父さんの仕事ようの車に道具が入っています。私は、「お父さんがんばってるなー、さすがやなー。」と思いました。

後、たまに手にケガをして帰って来ます。私は、「お父さんいける？いたくない？」と聞きます。お父さんは、「いけるいける。」と言います。「強いなー、お父さんなりたい」と思いました。

後、お父さんは力がすごく強いです。私がお父さんに、「チュッパチャップスを開けて。」と言います。お父さんは、チュッパチャップスを開けてくれました。私は、「さすが。」と思いました。

後、私がお母さんとケンカ、言い合いをしている時に、お父さんは私の味方をしてくれます。私はお父さんが大好きです。

これからも、大工さんを続けてほしいです。いつもありがとうございます。これからもよろしくね。

【9】

題名	お父さんの仕事
本人氏名	坂根大翔（さかね やまと）
性別	男
年齢	16歳
候補者との続柄	子

僕のお父さんは建設技能者として働いています。お父さんがどんな仕事をしているのか始めはあまりよくわかりませんでした。ですが、お父さんが仕事の話をしていてなんとなく分かるようになりました。お父さんの仕事は主に板金を加工する仕事で、熱絶縁工事という断熱や保温をする役割を担っていて、お父さんの仕事がないと施設などは保てません。お父さんの使ってる道具を見たことがあるけど、とても種類が多く重たそうで、力を使う仕事だということがわかります。それを毎日繰り返すのは、どれだけ大変かは考えてみると本当にすごいことだと思います。お父さんの仕事には、ただ物を作るだけでなくその背景にある思いやりや責任感が感じられます。板金を加工することは単に断熱や保温するだけでなく、そこの施設を利用する人々の安心や幸せを支える大切な仕事だと気づきました。お父さんが毎日がんばって仕事をしていると考えたら自分も努力して人の役に立てるような人になりたいと思います。建設技術者という仕事をもっと尊敬するようになります。

【10】

題名	父親は鳶職人
本人氏名	利根川 羽迅 (とねがわ はく)
性別	男
年齢	13歳
候補者との続柄	子
<p>自分から見た父親は家族の大黒柱として家族全員のために危険と隣り合わせの中、完璧に仕事をこなす、すごい人です。朝早くから現場に行き夕方帰ってきて一日中仕事を頑張っています。鳶職人は建物を建設するときに高いところで仕事をする人です。父親の仕事はとても大変でとても危険です。父親は安全帯をつけ堅固で安定している足場を作り、冷静に判断しながら作業を進めています。自分は父親が安全に仕事をしているのはわかっていますがたまに心配になるときがあります。</p> <p>父親は建物の骨組みを作る大事な役割を担っています。例えばビルや橋などを建てる時、父親の仕事がないと建物は成立しません。父親の作った足場の上で他の人が作業していくのです。父親の「足場を作る」という仕事があったことで他の人も安心・安全に作業を進めるることができますだと思います。</p> <p>父親は仕事が終わって家に帰ってくると『今日も一日やり切った』と言っていて、顔も疲れているのが分かります。そして自分に『今日は仕事の仲間とこんなことをしたよ』と話してくれています。その話を聞いていると中一の自分でも鳶職のやりがいや、大切さが分かります。父親は『高いところでの作業は楽しい』とよく言っていてどんどん鳶職の良いところに興味が湧いてきます。父親の仕事を通じて自分がいずれ仕事をするときに「父親が話していたことを生かしたいな」と思います。自分も将来父親のように誰かを支える・誰かの役に立つような仕事がしたいと思います。これからも父親の仕事を応援し父親の背中を見て自分も成長していきたいです。</p>	

【11】

題名	私のお父さん
本人氏名	西村 鳩悟 (にしむら そうご)
性別	男
年齢	14歳
候補者との続柄	子

私のお父さんは、二十年以上建設業に勤めています。どんな仕事をしているのかは具体的には分かりませんが、車で移動していると、お父さんの会社の名前があったり、「ここ
の道作った」などと教えてくれる事もあります。現在、サービス業などの第3次産業が増加している中、影で道路の制作、整備をしているということがどれだけの社会貢献になっ
ているのかということを考えると、とても誇らしいです。

少し前には、一級土木の資格の勉強にも勤しんでおり、朝から図書室へ行くその真摯な姿を見ると、本当にかっこいいし、尊敬しています。自分は現在中学2年生ですが、大人
になった時にはお父さんのような背中の大きい素晴らしい大人になりたいなと心の底から思っています。

【12】

題名	私のお父さん
本人氏名	鶴原 梓紗 (つるはら あずさ)
性別	女
年齢	10歳
候補者との続柄	子

私のお父さんの仕事は道路を作ったりちゅう車場を作ったりする仕事をしています。私はお父さんの仕事をしている所を見た事がありません。でもだいたい想ぞうができます。

前にユーチューブでお父さんと同じアスファルトほうををしている動画をお父さんといっしょに見た事があるからです。ショベルカーやトラック、ローラーなどいろんな機械があるのを教えてくれました。「どの機械に乗っているの?」と聞くと「全部乗っているよ」と言っていました。大きい機械や小さい機械いろいろな機械に乗ってるお父さんはすごくかっこいいなあとと思いました。

私の家ではハルという犬をかっています。お父さんが一人で草のはえていたお庭をきれいにして人工しばをひいてドッグランのようなお庭にしてくれました。お父さんはこういう事も仕事でやっているよといっていました。

私のゆめはトリマーさんになる事です。私も犬に関するいろいろな事ができる人になりたいと思いました。これからも体に気を付けてがんばってほしいです。

【13】

題名	形に残る仕事への尊敬
本人氏名	福士 悠樹 (ふくし ゆうき)
性別	男
年齢	17歳
候補者との続柄	子

私の父は土木の仕事をしています。道路や橋を作る仕事で、子供の頃は地味だなと思っていたましたが今では私たちの暮らしのインフラを支えてくれる大切な仕事だと考えています。

しかし、土木の仕事が決して楽なものではないことも知っています。今年の正月は天候を気にしていて、「大雪が降ったら現場に行かなきゃなあ」と言っていました。また過酷な肉体労働を伴います。疲れ切った顔で帰宅する日もありますがその辛さを口に出すことは少ないです。土木の仕事は一つ一つの作業が地道で体力を使うものだと思いますが、その積み重ねで私たちの生活に欠かせないインフラが作り上げられていてそんな仕事を父もしているのだと思うと誇らしい気持ちになります。また、父は現場の責任者を任せられており、その責任は重く、プレッシャーもあると思います。そんな中で、「現場では自分だけの力ではなく、みんなで協力する事が大切だ。」といい、重責を抱えながらもみんなで一つのものを作り上げる姿勢に感動しました。そして父は「どんな小さな現場でも一つ一つが社会の役に立っている」とも言っており、自分の仕事が誰かの役に立ち、地域を支えていると考える父の姿勢から仕事に対する責任感や誇りの大切さを学びました。私も将来、父が作ってきたもののように形に残る何かを作っていくみたいです。

【14】

題名	私のパパ
本人氏名	勝田 基 (かつた もとい)
性別	女
年齢	8歳
候補者との続柄	子

私のパパのお仕事は地図に残る、橋や高速道路や港を作るお仕事です。

パパが作った橋があれば、最短ルートで目的地に早く行けていっぱい遊べて便利になってこれからも活用されて、みんなの生活の役に立っていくと思います。

毎朝早く起きて暑い日、雨の日、雪の日も休まずに行って大変だなと思っています。

休みたくないのと聞いたら「仲間たちとひとつのものを作り、完成してみんなの笑顔が見られた時うれしいから頑張れるから。」と言っていました。

パパは家でよく「雑にやるな。」と言っています。

なぜなら折り紙もそうですけど雑におると完成したときれいに出来上がらなかったり、途中からできなくなったりすることがあります。

パパのお仕事も折り紙と一緒に雑にやったら壊れてしまったり大怪我してしまう人もでてしまいます。

完成日も決まっているから丁寧だけじゃなく早くやらなければいけません。

私も大人になつたらみんなの笑顔が見られるお仕事をしたいです。

【15】

題名	私のお父さん
本人氏名	菅野 結羽 (かの ゆう)
性別	女
年齢	11歳
候補者との続柄	子

私のお父さんは、大成ロテックという会社で道路を作る仕事をしています。お父さんは出張が多くて普段はあまり家に帰ってこないけど仕事が終わって帰ってきたときはいろいろな場所に行くのでお土産をいっぱい買ってきてくれます。

ある日、私はお父さんと買い物にいく途中で道路工事をしている場所を通りかかった時お父さんに「お父さんは、いつもこうゆう仕事をしているの？」と聞いた時がありました。「そうだよ。高速道路とか空港も作っているよ。」と、お父さんは嬉しそうにいいました。私は道路を作る仕事をしているとお母さんから聞いていたので車が走るところだけだと思い、お父さんに「空港って飛行機が飛んでいくとこ？」と聞くとお父さんは「そうだよ。飛行機がお客さんを乗せる為に止まっている所と飛行機が飛ぶための滑走路を作っているんだよ。」と言い、普段は私の話をずっと聞いているだけのお父さんが嬉しそうに仕事をしている時の話を聞かせてくれました。

お父さんは道路工事に使っている機械を操作する仕事をしているとその時初めて知りました。お父さんはいつも、家にいるときは仕事の話をすることがないのでお父さんの仕事の話を聞けてその時間はとても楽しい時間でした。

これからも体に気を付けてお仕事がんばってね。

【16】

題名	尊敬するお父さん
本人氏名	浦川愛翔（うらかわ まなと）
性別	男
年齢	16歳
候補者との続柄	子

僕のお父さんは港湾工事の仕事をしています。

お父さんは朝早く家を出て、高波や荒れた海から港を守る防波堤の建設や老朽化した岸壁の補修や強化を行い、海の安全性向上に貢献しています。

また、海底に潜り約30キログラムから200キログラムほどある石をひとつひとつ平らに並べ、防波堤や岸壁を設置できるようにして、港の安全を守るお父さんを尊敬します。

休日には、疲れて体もきついはずなのに、いろんなところに連れて行ってくれたりして家族との時間を大切にしてくれるお父さんに感謝しています。

いつか、日ごろの感謝をこめてマッサージをしたり、お父さんの好きな食べ物を作つてあげて喜ばせたいと思います。

現場では「ご安全に」と言う掛け声で作業が始まるそうなので、これからもご安全に仕事を頑張ってほしいです。

【17】

題名	こわい存在から憧れへ
本人氏名	坂口 暖真（さかぐち はるま）
性別	男
年齢	11歳
候補者との続柄	甥

僕のおじさんは建設会社で働いています。
 僕とおじさんが会うのは、家族や親戚が揃う正月やお盆くらいです。
 小学校低学年のころは、おじさんのことが正直とても怖くてビクビクしてたことを覚えて
 います。

1年位前の出来事。家の近所のガケが崩れた場所の工事現場におじさんがいることをお父
 さんから聞いて、学校帰りに友達と一緒に遠回りをして見に行きました。工事現場の入口
 には交通整理の人が立っていたので、工事現場の中をのぞきながら通り過ぎようとした時
 に、交通整理の人が笛を吹いていたので、振り返ってみると大きな重機を積んだトレーラー¹がバックで工事現場に入ってこようとしていました。トレーラーの運転手を見ると、「あ！おじさんだ！」と気づきました。おじさんは僕に気づいてないだろうなと思い帰ろうとしていると、僕たちにライトが向けられ『チカチカ』と点燈させてきました。すると、トレーラーが止まり、おじさんが車から降りてきて僕達を手招きました。僕達は、恐る恐るおじさんの方に行ってみました。おじさんが「休憩所に入って」と中に入れてくれて、休憩所で現場代理人という腕章をつけた人がお茶をくれました。僕達はイスに座ってお茶を飲んでいると、おじさんが『いっと待つとれ』と言ってトレーラーの所に戻り、積んである重機を地面に降ろし始めたので、その様子を部屋の中から見ていました。工事現場の中は、外から見るよりも意外と狭くて少し驚きましたが、その狭い中で大きな重機を降ろしているおじさんを見て、「あんな狭い所で大きな重機を操るなんてっこいい！」と思いました。僕の中でおじさんは、いつも少し無口で怖いイメージでしたが工事現場でのおじさんはいつもと全く違う雰囲気でキラキラしていました。僕たちは、その後おじさんと現場代理人さんから工事現場を少し案内してもらい、大きな重機や小さな重機を間近で見せてもらいました。現場代理人さんが、「乗ってみるね？」と誘ってくれたので、僕と友達は大きな重機の運転席に座らせてもらいました。

操縦席にはモニターがたくさんあって、360度確認出来てびっくりしました。おじさんと現場代理人さんやその他の工事現場の人たちが何か話をしていましたが、何を喋っているか正直全くわかりませんでしたが、途中途中に面白いことを言ってきて、僕たちは自然と大笑いして工事現場で楽しい時間を過ごしました。

僕は、工事現場の人たちは怖い、工事現場は危ない場所というイメージしか今までなかつたけど、今回のことときっかけに、今まで関心がなかった工事現場への興味がわいてました。僕のおじさんは、そんな工事現場でトレーラーを運転したり、大きな重機から小さな重機を操縦したりしています。近頃はおじさんが家に飲みに来るたびに『今どんな工事現場にいるの？』『どんな重機に乗ってるの？』『なんのために工事してるの？』と質問をたくさんしています。おじさんはお酒を飲むと普通のときより意外と喋るし工事現場の話を嬉しそうに教えてくれます。

おじさんの話で一番印象に残ったことが、僕が『一番辛かった現場は?』と聞いた時に、無人島での工事の話をしてくれました。水もない、風呂もない、電気もない、電波も入らない、島へはヘリコプターでしか移動できず、ヘリコプターで重機や材料や食料を運んで仕事したそうです。おじさんは、

「工事現場とは同じ現場は絶対ない、常に工事現場では慎重に仕事をすることが大事。一人では何もできない、みんなで一緒に工事現場を完成させるんだ!キツイ時もあるけれど、それを乗り越えて完成した時の喜びをみんなで味わえた時が幸せなんだよ。」と教えてくれました。僕にはまだ理解できないところもあるけど。

僕は、おじさんへの印象が今は憧れに変わっています。工事現場のことを聞くたびに、何のために工事をしているかを教えてくれるので、僕は、「いつか自分も重機に乗って道路工事したい、大きくて高い山を切りたい、深い穴を掘りたい、そしていつかおじさんと一緒に仕事をしたい」と思うようになりました。学校に行くときや車、路面電車に乗ってるときに工事現場を見ると、いつのまにか工事現場を見てしまっています。まだ、小学生なので何年も先になると思うけど、工事現場での仕事をしたいと思っています。工事の人たちに「たくさんの所を整備してくれてありがとう」と伝えたいです。

【18】

題名	誇り
本人氏名	新納 寛人 (にいの ひろと)
性別	男
年齢	15 歳
候補者との続柄	子
<p>父は地方の小さい会社ですが、土木工事の仕事をしています。</p> <p>私はまだ仕事についてあまり関心ありませんが、父は朝早くから夜遅くまで仕事に取り組み、その姿を見ていて、私は父を尊敬しています。</p> <p>私が父を尊敬しているところは3つあります。</p> <p>1つ目は仕事熱心なところです。</p> <p>前日から仕事の準備を怠らず、妥協しません。次の日に使う道具の準備を一人で夜遅くまで行い、当日の工事がスムーズかつ安全に進行できるようにしています。また、仕事に支障が出たときには現場に行き、率先して解決しようとします。</p> <p>2つ目は仕事が忙しいながらも家の時間も大切にしているところです。</p> <p>毎日仕事に真剣に取り組んでいますが、必ず家に帰ると皿洗いや洗濯ものを畳んだり、お風呂を洗ってくれたり、家の手伝いをしてくれます。週末には家族で外食や買い物に行ってくれます。また、私が5年間続けているバレーボールでは平日にも関わらず、いつもきまった時間に送り迎えをしてくれます。仕事と家族のことを両立しているところは、簡単にはまねできないと思いました。</p> <p>3つ目は論理的かつ合理的に物事を進めることです。</p> <p>仕事は父中心となって進めています。そこで何が一番効率的か、なにをしたら安全にできるかを吟味します。また、いろいろな人と話し合い様々な意見を取り入れ、仕事を円滑に進めるようにします。</p> <p>最後に、父がしている仕事は私たちの生活に欠かせないものであり、父はこの職に誇りを持っていると思います。父のような建設技能者がいるから、私たちは安全に暮らすことができることを再認識するとともに、父の偉大さに気づくことができました。</p> <p>私も父のようになれるように、これから高校生活を努力していこうと思います。</p>	

【19】

題名	頑張るお父さん
本人氏名	米谷 明笑（こめたに にこ）
性別	女
年齢	12 歳
候補者との続柄	子

頑張るお父さん

米谷 明笑（こめたに にこ）

私のお父さんは、建設工事をしています。現場ではリーダーをしています。他にも仕事の人たちに指示を出したり、重機に乗ったりしています。仕事の日以外でも家でずっとパソコンで仕事をしています。仕事から帰ってきても毎日夜遅くまで仕事をしています。現場でも、みんなに声をかけてみんなをひっぱっています。たまに、おもしろい事を言ってその場を盛り上げる努力家でおもしろいおとうさんです。

お父さんから聞いている仕事内容は、道路をつくったり川を広げたりしています。たくさんの人のやくにたっていると思うととても尊敬します。普段の生活でもお父さんの友達から、よくお父さんことを聞きます。「仕事面に関しては、こんなにすごい人はいない」と言われます。私は、それを聞いてとてもすごいなと思います。

私も、大好きなお父さんのようにたくさん人のやくにたてる、やさしくておもしろい大人になりたいです。

【20】

題名	僕のお母さん
本人氏名	由解 鑄武（ゆげ いふう）
性別	男
年齢	13 歳
候補者との続柄	子
僕のお母さんは、建設業の仕事をしています。建設業とは主に、僕たちが歩くどうろや建築物の地盤を造る仕事だと聞きました。そんな仕事をしているお母さんは、仕事に必要な資格を取るために、あいた時間をつかって勉強をしています。僕は、大人になつたら勉強をしなくて良いと思っていました。だけど、仕事や家事をしながら休みの日も勉強をしているお母さんを見て僕は、「大人になっても勉強しなきゃいけないの？」と聞くとお母さんは、「建設業という仕事は、どうしても体力面では、男性に負けてします。だけど、資格を取ることは、男性女性関係なく自分が、がんばった分だけ結果が出る。お母さんは、できないことに悩むのではなくて、自分ができることを、一つずつ増やしていくことで、一緒に働く人たちに、みとめてもらえるようにがんばらないといけないんだよ。」と言っていました。それを聞いて僕は、カッコイイなと思いました。だから、僕もお母さんのような大人になれるようにこれからは、できないことに悩むのではなく、できることから一つずつコツコツと努力できる人になりたいです。お母さん、これからも体にきをつけてがんばってね。	

【21】

題名	父の姿
本人氏名	玉城 郁斗 (たましろ あやと)
性別	男
年齢	16 歳
候補者との続柄	子

僕の父は、電気工事の現場監督をしています。
主に道路の外灯やトンネルの電気、建物の電気などスムーズに仕事を進めるために打ち合わせをしたり、予定を組んだりしています。

このように仕事中は一生懸命な父ですが、家に帰ると、ソファに寝転がってテレビを見ています。仕事でつかれているはずなのに、次の日には朝早くから仕事にでています。

そして、僕の父のすごいと思うところは、21 歳のときに電気工事士の資格を取得し、今も、資格取得のため努力を続けていることです。また部長にもなり、現場でまとめたりしていることがとても僕はすごいと感じました。

僕も父のように、将来 努力を続け、頑張っていけるような大人になりたいと思っています。